

2018年5月6日（日）

主 題：「主は共にいてくださる」

—弱くても大丈夫—

テキスト：ヘブル人への手紙13章4-6節

はじめに

- ・前回、私たちは「互いに愛し合いなさい」という、主のみ声を聞きました。愛することは、聖書がもっとも大切なこととして教えていることです。愛することはどんなに大切か学びました。まだ、覚えておられますか？
- ・その愛し合う最小の単位（ユニット）は、何かと言えば「夫婦」です。夫と妻、男性と女性、この単位より以下の単位はどこにもありません。この最小の単位で「愛し合いなさい」と、神は実戦するよう願っておられます。
- ・本来、神が人間を最初に造られたとき、互いに愛し合う愛の人として造られました。ところが、最初の人であるアダムとエバの夫婦は、罪を犯すと、罪の責任をなすりつけ合いました。互いの愛の関係から反目の関係へと変えてしまいました。こうして、本来は祝福であるはずの関係は、目も当てられないようになってしまいました。
- ・どうぞ、覚えてください。最初に神がアダムとエバを造られた時、神は人間が結婚するものとして造られました。ですから、結婚は人間が考え出したものではありません。また、人間が罪に陥ったために、神が考え出されたものでもありません。最初から、人を男と女として造られた時、結婚するものとしてお造りになられたのです。
- ・しかし、人が罪に陥ってからは、祝福であるはずの結婚がそうでなくなりました。ある人は、自分の道を互いに歩むということが起こってきました（離婚）。結婚は、「互いに愛し合いなさい」というみ言葉を実践する場です。ですから、もし独身の賜物が与えられている人というのは、独身で愛の実践をしていく働きをするはずで、それは、結婚するよりはるかに尊いものであると、聖書は教えています。

使徒パウロは、生涯独身でした。 **1コリント人への手紙7章**

7:7 私の願うところは、すべての人が私のようなことです。しかし、ひとりひとり神から与えられたそれぞれの賜物を持っているので、人それぞれに行き方があります。

7:8 次に、結婚していない男とやもめの女に言いますが、私のようにしていただけるなら、それがよいのです。

{例 話}

- ・ドイツのDarmstadtに、「マリア福音姉妹会」(Sisterhood of Marry)という女性たちの団体があります。日本では「キリストの花嫁」、「神の現実」という本でよく知られています。この団体は第二次大戦後のドイツで、その廃墟の中での聖書研究会から生まれた女性たちの団体です。
- ・そこには、何百人もの美しい姉妹たちが共同生活を送っています。彼らの生活は、神の奇跡の連続です（今日は詳細は語る時間がありません）。とにかく、マリア福音姉妹会の本を読んでもらいたく思います。
- ・ある時、日本で非常に有名な伝道者がDarmstadtのマリア福音姉妹会を訪問しました。私は通訳として一緒でした。彼らが共に暮らしている地は、カナン（神の約束の地）と呼ばれています。そこにはガリラヤ湖という小さな池があります。その傍らに

座り、姉妹たちは日本人伝道者に神が成された不思議なわざ（祝福）について、証しをしてくださいました。

- ・証し後、日本人伝道者は姉妹たちに質問しました。
「マリア福音会の姉妹たちの中には、ここから出て結婚される方はいませんか？」
すると姉妹たちは、本当にビックリし驚きの顔をしました。そして「私たちはカナンで、主とともに歩むこんなに幸いな生活を過ごしています。ここから離れて、世の男性と結婚することなどは考えられません。」と言いました。
- ・姉妹たちは真に喜びに満ちた顔を見せて、そのように証をしてくださったこと、私は今も鮮明に覚えています。

- ・皆さん。結婚生活は幸いです。しかし、パウロのように結婚しないで生活できる人は、なお幸いです。しかし、誰もがそうではありません。それは、神によって定められた人であると思います。
- ・今日、私は結婚の具体的なことについて、深く入るつもりはありません。このテーマは、大変大きな、そして重要なテーマであることを覚えてください。著者は次のように勧めています。ヘブル人への手紙 13 章
13:4 結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行なう者とをさばかれるからです。
- ・私たちは今日のみ言葉から、次の大切な2点を学びたいと思います。本題に入る前に、私は申し上げておきたいことがあります。今日のメッセージは、私はある特定の人について、意識して語っているのではないことです。ただ、神の「聖書のことば」として受け止めていただきたいと願っています。

大切なポイント

1 神のみこころにかなう結婚

1) 結 婚

- ・神のみこころにかなう結婚とは、どういう結婚でしょうか？
⇒ それは聖書の原則に立つ結婚です。
聖書は次のように教えています。 マタイの福音書 19 章
19:5 『それゆえ、人はその父と母を離れて、その妻と結ばれ、ふたりの者が一心同体になるのだ。』と言われたのです。それを、あなたがたは読んだことがないのですか。
19:6 それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」
- ・一般的に、私たちは結婚相手を考える際、自分が決めた基準で相手を捜すものです。例えば、男性の場合なら、相手の容貌とか学歴、体格などに目が止まるかも知れません。女性の場合なら、相手の職業（種）や収入、学歴などを考えるかもしれません。きっと皆、それぞれ違うことでしょう。
- ・問題は、そういう基準で相手を捜すならば、結婚生活がうまくいくと思うところにあります。そういうことよりも、創造神を信じる人であるかどうかの方が、はるかに大切なことです。なぜなら、人は完全ではないからです。完全ではない者がもつ基準は、やはり完全ではありません。ですから聖書は、「**神が結び合わせたもの**」と教えています。
- ・すなわち、結婚は神が結び合わせたものです。そうであるならば、世界のどこかに、神が結び合わせた相手がいるはずで、その相手に出会った人は、最高に恵まれた方でしょう。

- ・結婚生活では、色々と困難なことが起こってきます。その時、神が備えてくださったという確信があるならば、結婚についてぐらつくことはありません。むしろ二人で力を合わせて、結婚を乗り越えて行こうと考えることができます。ですから、結婚生活においては、スタートが肝心です。
- ・それでは、そういうスタート（聖書が教える）をしないで結婚生活を始めた人の場合は、どうでしょうか。ある人は、困難が起こると、自分たちの結婚は間違っていたのではないかと考えます。都合が悪くなると、振り出しへ戻り、それを疑うのです。結婚にかぎらず、困難が起こると都合の良いように考えるものです。聖書はこう言います。

1 コリント7章

7:12 次に、そのほかの人々に言いますが、これを言うのは主ではなく、私です。信者の男子に信者でない妻があり、その妻がいっしょにいることを承知している場合は、離婚してはいけません。

7:13 また、信者でない夫を持つ女は、夫がいっしょにいることを承知しているばあいは、離婚してはいけません。

7:14 なぜなら、信者でない夫は妻によって聖められており、また、信者でない妻も信者の夫によって聖められているからです。そうでなかったら、あなたがたの子どもは汚れているわけです。ところが、現に聖いのです。

- ・ここで教えられる点は、夫であり、妻であり、神への信仰をもっていない配偶者を持つ人は、信仰を持つ聖徒によって「聖められている」ということです。これは神の奥義です。ですから離婚してはいけない、と聖書は教えています。祝福です！

- ・ですから皆さん。そのようなケースですが、もう結婚しているのですから、結婚が良かったかどうかを考えるのではありません。どうしたら良い関係に、転換できるかを考える方が大切です。後ろを振り向かないことです。結婚している事実を謙虚に認め、二人の関係がうまく行っていないのは、二人の今の生き方が違っているからです。二人が今の生き方を考えるべきなのです。それは人間の意思や力で、出来ることではありません。それは上におられる、神の力による以外にはありません。

- ・皆さん。どのような経緯から結婚したとしても、神の許しなしにはあり得ないことである、と覚えてください。マタイの福音書

19:6 それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」

二人ではなく、一人なのです。ここに神の奥義が秘められています。

2) 結婚を尊びなさい

13:4 結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。

なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行なう者とをさばかれるからです。

- ・「結婚を尊ばれるようにしなさい」（or 大切にしなさい）とは、結婚によって始まった家庭を大切にすることです。結婚生活は独身時代と違い、相手のことを考えなければなりません。そこは具体的に、愛するとはどういうことかを学ぶ所です。生活のすべてを見せ合う中で、自分の欠点もさらけ出すでしょう。相手の人もそうです。結婚生活は、聖書の言葉の実戦道場であります。
- ・「不品行な者」の原意は、元来「売春する者」です。「姦淫を行う者」とは、不倫するものです。

アブラハム時代のソドムとゴモラ、またローマ時代のポンペイなどはポルノの町でした。コリントの町もそうでした。今の日本も変わりません。いいえ、もっと悪いかも知れません。心が痛みます。神は決してそれを見過ごされることはありません。

- ・「結婚を大切にしてください」とは、配偶者以外とは性的関係を持たないということです。したがって、現代普通になっている「同棲生活」（神の前で契約を結ばない結婚）は、神が教える結婚とは全く違います。それは神の祝福を失うことです。これは非常に危険なことです。周りが「同棲生活」をしていると、それが普通になり、むしろ聖書の教えの方がおかしいことになります。神の前での結婚生活でないならば、ソドム、ゴモラの時代、コリントの時代、エペソの時代のように必ず衰退し、神の祝福は遠のいてしまうことを、覚えてください。
- ・夫婦が本当に愛し合っていれば、配偶者以外へ走ることはないはずですが、多くの人々が、不品行や姦淫に走るには、夫婦の関係がしっかり成り立っていないところにあります。
- ・結婚生活は自分の良いところも、悪いところも全て見せ合う生活です。そこにおいて愛するということは、そう簡単なことではありません。愛し合うということが、実際にできていなければ、確かにそうです。ですから、生活を共にしていない人の魅力に引かれて（真の姿が見えてない）、不倫へと走ってしまうのです。
- ・皆さん。気をつけないと、クリスチャンにも悪い影響を与えます。不倫によって、多くの結婚生活が破局を迎え、家庭が崩壊しています。（週刊誌、テレビのワイドショー、ドラマは、このような他人の不幸な記事で購買力、視聴率を上げています。）本当に心痛みます。
- ・揺るぎない夫婦関係が成り立つためには、キリストが教会を愛し、命を捨てられた愛をもって、互いに愛し合うことが必要です。しかし、それは自分の力ではできません。これは主イエス・キリストを救い主と信じる信仰によって、はじめて与えられるものです。
- ・著者は、次に大切なことを教えています。

2 満たされた生活を楽しむ

1) 大切な勧め

- ・ **13:5 「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しない。」**
- ・ この勧めは誰にでも必要です。心理学者は語ります。人間は、生き立ちの過程において、お金がないことで肩身の狭い思いをしたならば、お金に強い関心を持ちます。そういう人は金銭欲に執着する 경우가、多いと言います。それが悪いと言っているではありません（誤解ないように）。お金の方が、イエスよりも大切となり、魅力があると考えるところに問題があります。
- ・ 物質中心主義もまた、悪性の「病気」となって広がっています。聖書は次のように語っています。 **マタイ福音書 6章**
6:21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。
- ・ 物質に心惹かれるということは、先ほどの自分の結婚相手よりも他の人に心引かれることと似ています。
「神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」（マタイ 19:6）とあるように、「いま持っているもので満足しないで。」（ヘブル 13:5）と教えています。この世の中、お金が売買の手段ですから「金銭を愛する生活をしてはいけません」（ヘブル 13:5）と教えています。自分の周りにはいるセレブの人を見て、その人の生活がうらやましくて、仕方がないということはありませんか。
- ・ では、どのように生きればよいのでしょうか。イエスは次のように言われました。

マタイ福音書

- 6:25 だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。
- 6:26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。
- 6:27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。
- 6:28 なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。
- 6:29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。
- 6:30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。
- 6:31 そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。
- 6:32 こういふものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。
- 6:33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。
- この聖句は、神のことをいつも第一にしなさい。そうすれば、衣食住は天におられるお父様が必ず面倒を見てくださることを、教えています。また、パウロも次のように教えています。1テモテへの手紙
- 6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。
- 6:7 私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。
- 6:8 衣食があれば、それで満足すべきです。
- 6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。
- 6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

2) 満足する生活の秘訣

- 著者は、単に金銭を愛する生活はいけない、今持っているもので満足しなさい、と言うだけではありません。全く別の角度から、勧めをしています。それは今、与えられているもので満足できる理由です。ではなぜ、満足できるのでしょうか。
- 13:5主ご自身がこう言われるのです。
- 「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」
- 皆さん。なんと力強い言葉ではありませんか。天地万物を造られたお方が、「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」と言われるのです。それ以上に心強いことはありません。
 - しかしながら、人間はそのみ言葉を聞いていても、もっとお金が欲しいと貪欲になります。あるいは、配偶者以外の他の異性に目が行ったりします。なぜ、そんなに弱い者で

しょうか・・・。考えてみてください。

- お金を愛する人、あるいは結婚しているのに、他の人を配偶者より愛する人には、共通項があります。それは私たちの主イエス・キリストを知らないことです。イエスを本当によく知れば、その魅力が大きいので、お金や他への魅力など色あせてしまうものです。
- 主である神がいつも共にいてくださり、決して見捨てられることはないと分かれば、自分のためにお金を求めたりしなくなります。宝を天に蓄えることの喜びが身につくようになっていきます。イエスは言われました。 **マタイ福音書**
6:20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。
- 著者は次のように語っています。
13:6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れませんが、私に対して何ができません。」
ここに、私を存在の根底から支えてくださるお方がおられるのです。

ま と め

主 題：「主は共にいてくださる」

—弱くても大丈夫—

- 今日、私たちは大切な教えを聞きました。神は私たちに、命まで与えてくださいました（アガペー愛）。もし私たちが、誤った方向に進むならば、神はどんなに心痛められるでしょうか。今日のテキストにおいて、著者は大きく考えて問題は二つ取り上げました。それは、私たちが最も神の祝福を失いやすい点です。
 - ① 「結婚」について
 - ② 「物資」について
 この2点は、肉をもつ人間には非常に魅力的なものであります。
- これらの点で、なぜ失敗するのかという問題点の共通項は、主イエスのすばらしさを知らないことにあります。ですから、神より他のことが優先してしまうのです。非常に危険です。クリスチャンでも気をつけなければなりません。
- では、どうすれば良いのでしょうか？ ⇒イエスをもっと知ることです（devotion）
大切なことは：
 1. 「聖書の原則」に従うこと
 2. 主と幸いな「交わり」を持つこと
そのために、日々デイボーション（静思の時）を大切にし、主に先導していただくことです。

* God bless you !